

What's up,

OITA!

(どげえかえ、ふるさと大分！)



日本一の
おんせん県おおいた
味力も満載

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol.29》2015年7月1日発行

バックナンバーはこちら <http://www.pref.oita.jp/soshiki/10140/whatsupoita.html>



海外大分県関係者の皆さまへ

企画振興部長・審議監ご挨拶



企画振興部長
廣瀬 祐宏
(Yuhiro HIROSE)



5月1日から企画振興部長に就任いたしました廣瀬(ひろせ)と申します。世界でご活躍の海外大分県人会の皆さま、元留学生の皆さま、そして本県を応援いただいております関係者の皆さま方には、常日頃から県の施策へのご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

大分県では、県民の誰もが夢と希望を持ち、心豊かに暮らせる大分県づくりを進めるため、長期総合計画「安心・活力・発展プラン2005」に基づく各種の施策を推進しています。企画振興部は、このうち政策企画、観光、地域振興、文化芸術・スポーツ、国際、広報、交通の分野に取り組んでいますが、今年度(2015年度)は、プランの最終目標年度であり、各施策の最後の仕上げと次期長期計画の策定に向けた準備を進めています。

観光においては、今月から3ヶ月間、JRグループと連携したデスティネーションキャンペーンにより、全国各地から多くの観光客をお迎えしますが、一方で、海外からの観光客誘致を図るため、アジアをはじめ世界各地に向けた本県の魅力の情報発信に取り組んでまいります。また、来週には、アメリカから約80名をお迎えしてホームステイなどの交流を図る日米草の根交流サミットも開催されます。

今年4月に開館した県立美術館(OPAM)では、連日多くのお客で賑わっていますし、2019年に大分も会場の一つに決定したラグビーワールドカップに向けた準備も始まりました。このような文化芸術、スポーツの振興にも取り組んでいます。

県産品の輸出拡大に向けては、今年も、タイや台湾、香港などアジアをはじめ、イタリヤ・ミラノ万博でもPRを行う予定としていますし、そのほか、留学生の活用や国際人材の育成など、様々な分野において大分県の海外戦略を進めてまいります。

皆さま方には、今後とも、故郷大分の情報を発信してまいりますので、引き続き、県へのご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。



企画振興部審議監
中島 英司
(Eiji NAKASHIMA)

5月1日から企画振興部審議監を務めております中島(なかしま)と申します。

5月には、新たにフィリピン大分県人会が発足し、また、6月には、APU校友会の香港チャプターが設立されるなど、大分県から世界へと着実に交流の輪が広がっています。

グローバル化が進む中、県産品の輸出拡大や海外からの観光客誘致、国際人材の育成等に取り組む大分県にとって、海外で活躍される皆さま方とのネットワークは、貴重な財産です。今後とも、このネットワークを大切にしながら、また、機会がありましたら、皆さま方と情報交換などさせて頂ければと考えています。

今年度も引き続き、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

海外大分県人会交流掲示板



フィリピン大分県人会が発足！

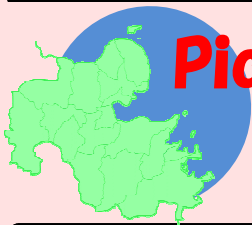


マニラで大手コンビニチェーンの責任者をしています「恒松」(別府市出身)です。
「フィリピン大分県人会」は前任の代表者が当地を去りしばらく休会となっておりましたが、昨年からは県出身者を探し始め、去る5月19日に当地の居酒屋に大分県出身者及び縁のある5人が集まり「県人会」の再スタートの意思を確認しました。

フィリピンには約18,000人の日本人が居住していると言われています。まだまだ県出身者が居ると思いますので、会員数の拡大に向けて着実に活動を進めていきたいと考えております。

今後ともよろしくお祈りします。

フィリピン大分県人会問合せ: tnmthdnr@gmail.com (恒松)



Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事(6月)

News

【6月18日(木)】 ムスリム研究センターが発足。

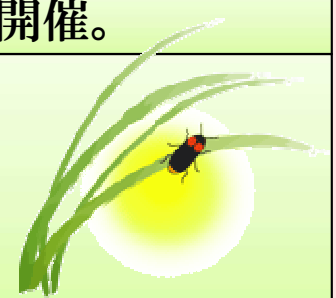
イスラム教徒(ムスリム)を知るための研究機関「ムスリム研究センター」が、立命館アジア太平洋大学に発足しました。同センターでは、ムスリムとの経済、文化、国際交流を深め、企業や自治体と連携して日本製品の輸出拡大や観光客の呼び込みに活躍できる人材育成を目指します。センター長には山本晋教授(国際経営学部)が就任しました。今後、企業の商品開発から、ムスリムの観光客への対応、文化や思想、国際関係まで幅広く研究する予定です。



News

【6月6日(土)】 県内各地でホタル鑑賞会を開催。

6月に入り、県内各地でホタル鑑賞会が開催されています。中でも、竹田市荻町南河内地区では、特別な「ホタル祭り」の“再開”となりました。
同地区は、2013年の九州北部豪雨災害で、祭り会場である地区公民館施設が損壊し、2年間「ホタル祭り」が開催出来ない状況でした。2年ぶりの開催となった「ホタル祭り」では、地域の復興への思いを込め、災害復興記念碑の除幕式や子供神楽が披露されました。



News

【5月30日(土)】 英語飛び交う稽古場で留学生がはっけよい!

世界中から留学生が集まる立命館アジア太平洋大学で、相撲サークルが、本格的に活動をはじめました。メンバーも国際色豊かであり、日本人(3名)、米国人(2名)、ナイジェリア人、キルギス人の計7名が、週3回、別府市内のコミュニティーセンター内にある相撲練習場で稽古に励んでいます。稽古場では、別府実相寺相撲クラブの末宗公明総監督が、身振り手振りに加え、時に学生による英語の通訳を介しながら指導が行われます。メンバーは、学生相撲選手権大会への出場を目標に日々、汗を流しています。



※国際政策課にて新聞等を元に作成



台湾にて訪日教育旅行の誘致行事に参加 国際政策課



6月23日～6月25日の間、台湾で開催された訪日教育旅行現地説明会に参加しました。高雄市、台中市、台北市と台湾を縦断しながらの説明会参加となりましたが、台湾からは、たくさんの学校職員の皆さまが参加され、日本への関心の高さがうかがえました。

大分県は、九州各県と比較しても学校交流を積極的に行っており、また、教育旅行で人気のある農家民泊も非常に充実しています。今回は、この2つを柱に、大分の観光地や体験できることなどをアピールしてきました。台中市では、台中日本人学校校長の廣瀬先生(大分県出身)が会場に駆けつけ、自ら大分の青いハッピーをまとい、台中市内の校長先生方に声をかけ、大分をPRしていただきました。



台北市では、大分県人会の木津様、平野様、阿部様にお会いし、懇親会を開催していただきました。皆さまの台湾での生活や台湾と日本の関係等、大変興味深く聴かせていただきました。楽しいお時間、ありがとうございました。

今回の現地説明会参加、県人会の皆さまとの懇談を通して、台湾へ向けた大分県PRの大きな可能性とネットワークの大きさを改めて感じました。今後も、若い世代に「大分」を体験していただき、日本の故郷と感じていただけるような教育旅行・学校交流の取組を行っていきたいと思います。



中国湖北省研修員・陳瑾(チン キン)さんが来県しました。

県と中国湖北省の相互交流の一環として、同省から研修員をお迎えしました。これから約半年に渡り、本県にて主に観光分野の研修を行います。皆さん宜しくお願いします！



陳瑾(チン キン)
孝感市孝南区外事僑務観光局

皆さん、初めまして！私はチンキンです。中国の湖北省孝感市孝南区からまいりました。孝感市孝南区外事僑務観光局で働いております。どうぞよろしくお願いします。

孝感市は中国で唯一、孝の名前がつく町です。そして、中華孝文化の本場です。孝感市は三月が一番良い季節です。チューリップと桃の花の季節ですから。そして 桜の季節でもあります。

大分県は世界に名を馳せる温泉の観光名所で、観光施設の整備や、観光企画、観光客をもてなすノウハウなどが優れています。

今回の研修を通じて、大分県の観光分野における先進的な経験とやり方を学びたいと考えております。そして、孝南区と大分県との友好交流のために架け橋としての役割を果たしたいと思っています。

帰国後、日本で修得した知識と経験を実際の仕事に活用し、孝南区の観光振興に貢献したいと思っています。



Welcome Back ! ニコール元国際交流員が来県しました。

昨年7月に、3年の任期を終え、オーストラリアに帰国した県の元国際交流員ニコール・フリンさんが、久しぶりの来県をはたしました。ニコールさんは現在、在豪州日本大使館に勤務しています。ニコールさん、大分はいかがですか？

本当に素晴らしかったです。特に大分県立美術館(OPAM)が好きでした。

2014年の夏まで、OPAMに関するテクニカルな文書を読んだり、翻訳したりしましたが、なかなか完成したものをイメージできませんでした。ようやく実際に見れて感動しました。

とても明るくて、オープンなスペースです。大分県の特徴をよく表しています。



From our Reporters

県の国際交流員等が、旬なOITA情報をお届けします。



ミリアム・スターリング
(Miriam Starling)
県国際交流員
英国
pu101503@pref.oita.jp

ある曇った日に、友達と一緒に大分の有名ならみたまご水族館に行きました。子供の時から、海の動物や海に夢中になりましたが、「大人になったら、水中ダイバーや海洋生物学者になる!」という子供の頃の夢を昔にあきらめました。しかし、今も海に行けば、幸せになりますし、船に乗ってホエールウォッチングをするなどのような活動が大好きです。うみたまごは海のそばに位置しているし、いろいろな魚や海の動物が見られます。もちろんイルカ、アザラシ、ペンギンなどで有名ですが、普通的水族館と違って「豊後水道の動物」などの大分特有の情報も展示しているので、勉強になりました。しかし、問題が一つあります。海の動物の日本語の名前に関する知識が足りなかったので、友達と動物について話そうとしたら、何回も困ってしまいました!! ですので、勉強のため、うみたまごのお土産ショップで海の動物の日本語の名前が乗っているポスターを買って、キッチンに掛けました。紅茶を入れるとき、ポスターを見て、名前を暗記するように頑張っています!



李 晓雪
(Li Xiaoxue)
県国際交流員
中国
pu101501@pref.oita.lg.jp

先週、6月27日の土曜日、大分県の留学生と一緒に百年以上歴史がある八鹿酒造などへ見学しました。入口で、事務所からお姉さんが一人出てきてくれて、蔵を案内してくれました。蔵に入った時、「笑門」という大変古い大額が見えました。そのお姉さんが笑門の秘密を話してくれました。笑門というのは、たんに“笑う門には福来たる”というだけではなく、この額の下を通る時はみんな笑顔で通りなさい、ということです。また、そういう意味で仕込み、蔵へ続く通路に掲げてあります。酒を造るのは酵母、すなわち生き物です。穏やかで平和な心、愛情を持って接しなければ良い酒は造れないという考えからです。八鹿酒造の先代が残してきたこのような気持は、人々に感心させないわけにはいかないだけでなく、また現代の人々にとってもかけがえのない財産です。



金 眞雅
(Kin Jina)
県国際交流員
韓国
pu101502@pref.oita.lg.jp

初めて大分に到着した日、空港から大分駅まで向かうバスの中で、私は、車窓から景色を眺めていました。すると、海沿いの自転車道が出てきました。海も自転車も大好きな私は自転車を買ったらここまで乗ってこよう!と思いました。そして、友達が十分に訪れたとき、一緒に自転車に乗って自転車道を走りました。左に山、右には別府湾という綺麗な景色を眺めながら自転車で走るとすっきりした気持ちになりました。この道路は歩道と自転車道が広がっているため、サイクリングやジョギングのコースとしてよく使用されているそうです。また、道沿いに田ノ浦ビーチと高崎山自然動物園、うみたまごなどの観光地もあります。最近は雨や曇った日が続いているので、天気が良くなったらまた行きたいと思っています!



なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～ 【大分市／別府市】



(大分市)
大分マリリンパレス水族館
「うみたまご」
新施設「あそびーち」が人気



(大分市)
「大分元町石仏」
上野丘台地東端の凝灰岩の崖に刻まれた石仏



(別府市)
「湯けむり展望台」
鉄輪からの眺め
別府を代表する風景



(別府市)
「神楽女瀬」
平安時代に鶴見岳社の
歌舞女が住んでいたといわれる



話題提供のお願い!

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください!(様式は任意です)

【記事提供先/お問い合わせ先】
国際政策課 担当:平山(ひらやま)
【Mail】 a10140@pref.oita.lg.jp

